

雨の「川と海のクリーン大作戦」



10月26日(日)に木曽三川流域や伊勢湾沿岸の市町村が参加する「川と海のクリーン大作戦」が実施され、当町でも牧田川と揖斐川の堤防において清掃活動を行いました。参加者は牧田川と揖斐川の堤防上に設けられた11カ所の集合場所を出発し、河川環境の美化と保全のため、目を凝らしてごみを探しながら練り歩きました。小雨が降る中ではありますが、町内外から多くの人々が参加し、堤防上に捨てられていた缶やペットボトルなどを積極的に拾い、袋をごみでいっぱいにしていました。参加いただいた皆さまの協力により堤防上からごみは一掃され、河川環境美化の推進に大きく貢献しました。

伝統をつなぐ“栗笠の獅子舞”



10月5日(日)に福地神社(栗笠)で例大祭が行われ、岐阜県重要無形民俗文化財にも指定されている栗笠の獅子舞が栗笠獅子舞保存会により奉納されました。栗笠の獅子舞は五穀豊穡への感謝と村内の安全を祈願するために祭礼内で行われています。祭礼はかつて10月4日・5日に行われていましたが、社会の変化に合わせ近年は10月5日に近い土曜日に試楽、日曜日に本楽が行われています。祭礼では、神事や獅子舞奉納のほか、祭り踊りも奉納され、境内には大提灯、切子灯籠、紅灯籠が献灯されます。

この日は雨のため、福地神社内の栗笠西青少年集会所において奉納され、保存会の会員が三代で獅子舞の演舞を披露しました。

いのちを守るシートベルト



10月28日(火)に笠郷小学校にて、県、養老警察署、(一社)日本自動車連盟(JAF)岐阜支部と共催で6年生の児童を対象とした交通安全教室を開催しました。養老警察署交通課の桂川さんによる交通安全と防犯講話の後、衝突実験DVDの視聴とJAFの中村さんの講話が行われ、自分の命を守るための交通ルールとシートベルトに関する正しい知識を学びました。

講話の後には、反射材の有用性を体験することができるリフレクボックスにより反射材の有無で視認性がどう変わるか体験するとともに、シートベルト着用効果体験車に乗り、時速5kmでの衝突を体験することでシートベルトがいかに大切か身を持って学びました。

地域で広げる食育の環



10月9日(木)に笠郷小学校の5年生児童が、地域住民と農業者、西美濃農業協同組合職員などにより構成される笠郷地区環境保全対策協議会の指導のもと、稲刈りと籾の脱穀作業を体験しました。児童たちは鎌を使って稲を刈り取り、千歯扱きや足踏み脱穀機によって脱穀を行うなど、手作業で米を収穫しました。その後、今では農作業に欠かすことのできない農機具であるコンバインについて説明を受け、刈り取りと脱穀、選別の作業を同時に行うことができる仕組みについて教わりました。

児童たちは稲作を通じて、自分たちが住む地域の人と交流を持つとともに、自分たちで育てて食べることで食への感謝の気持ちを育みました。